

農林水産省・全国農業協同組合中央会・JA全国女性組織協議会推薦  
文部科学省選定、文化庁支援

# あじろ

## 人とコメとのLOVE STORY

### 田んぼにおいでよ!

©映画「おにぎり」製作委員会



監督  
斎藤 耕一(さいとうこういち)

1929年東京都生まれ。立教大学中退後、映像分野の仕事に就くため東京写真工芸大学(現・東京工芸大学)に進む。49年大泉映画(東映の前身)にスクールマンとして入社。54年に日活に転じ、「ピルマの壁紙」「勝と軍艦」など多くの作品を担当する。当時話題を呼んだ、石原裕次郎写真集「海とトランペット」を撮影するなど、裕次郎と最も親しい友人の一人として知られる。67年、斎藤プロを設立。同年自らの脚本で「囃き(ささやき)のジョー」で監督デビュー。72年、仮釈放の女囚と強盗犯とのつかの間の恋を描いた「約束」で、その名を高め、同年の「旅の重さ」「津軽じょんがら節」の日本のローカルな風土を背景にした三部作で日本映画界を代表する監督の仲間入りをする。テレビCMの演出や戯曲の執筆、ショーの演出など幅広く活躍。代表作に「小さなスナック」「再会」「人間の砂漠」「望郷」など。74年文化庁芸術選奨、文部大臣賞、94年紫綬褒章受章、2000年勲四等旭日小綬章、日本映画シナリオ功労賞、03年日本映画批評家大賞プラチナ大賞。



撮影は2年間かけた。演出する斎藤監督(イス)



浅茅 陽子(あさひようこ)

静岡県出身。1976年NHK朝のテレビ小説「雲のじゅうたん」の主役で一躍脚光を浴びる。その後、テレビ、映画、舞台、CMなどで活躍。主な作品は、映画「エバラ家の人々」、NHK「お江戸でござる」、舞台「不死鳥ふたたび・美空ひばり物語」の美空ひばり役など。



収穫の秋―日本人の主食「米」を題材にした映画「おにぎり」AR C A D I A物語(監督・斎藤耕一、2004年製作)。山形県の豊かな自然の中で、バイクに乗って東京から駆け落ちしてきた若いカップルが地元で米づくりに乗る人たちの間に溶け込み、米づくりの魅力に引き込まれていく。そうして、悩み、仲間と出会い、結婚や出産といった人生の節目を体験し成長する。コメを通して若者たちの精神的成長を描いた骨太の映画だ。本日15日午後2時からユナイテッド・シネマウニクス上里で特別上映会(埼玉新聞社主催、株式会社ウニクス協賛)を行い、斎藤監督と主演女優の浅茅陽子さんを招いて、トークショーが開催される。午後1時からは、関連イベントとして新米おにぎりの試食会なども行われる。(脇田巧彦)

#### 大自然のメモリーに 贈る心の叙事詩

斎藤監督は石原裕次郎が一番輝いていた昭和30年代、裕次郎付きスチールカメラマンとして裕次郎作品のほとんどもを手掛け、名をはせた。のちに映画監督として囃き(ささやき)のジョー(1967年)でデビュー。「約束」(72年)など、そのシャープで華麗な映像感覚から和製クロード・ルーシユと、もてはやされた。

そして「旅の重さ」(73年)など、日本のローカルの風土を背景にした作品を生み出した。

この「おにぎり」も山形の風土の美しさ、そこに住む人たちの心の優しさ、郷土を愛し信じている人たちのありのままの姿を大らかに描いている。

「おにぎり」の舞台は山形県、置賜地方。山、川、畑、田、日本の原風景がせいたくに残っている農村だ。棚田がすばらしい。

#### 現代風の若者が米づくりを 通して大きく成長

この平和な村で「大日本生き残り隊」という組織で、米づくりをしている人たちがいる。都会生活に疲れた脱サラ組、クラブのママ、訳あって流れてきた者。彼らは集団生活をしながら耕作し、人



大日本生き残り隊のメンバーは職歴もまちまち

間の営みを育んでいる。そんな平和な農村にバイクに乗って東京からやってきたミュージシャンくずれの慎二(吉永雄紀)と恋人・友美(大貫あんり)。駆け落ちしてきたのだ。

茶髪にヤンキー風。この風土に最も似つかわしくないカップル。おまけに慎二は大学の米嫌いとく。このカップルが、生きるために大日本生き残り隊に「入隊」。米づくりの基礎から学び、田植え、草取り、稲刈りと学んでいく。

中途半端な気持ちで米づくりに取り組んでいた慎二も、友美の妊娠を機に男として父親としての責任感を持つようになる。

台風の来襲、不動産屋の暗躍。友美の墮胎手術騒動。さまざまな人間模様が稲の成長過程に合せて繰り広げられる人間ドラマ。

を出演。父親になった実感の慎二はこの地に腰を据え、息子ともども米づくりにする決心を。

#### 子どもの食育にも役立つ 力作

食糧自給率が問題になっている日本農業。米づくりの重要性、命を創る農業のすばらしさ、米ができるまでの苦労、食農教育の指針にもなる映画で若い世代にも足を運ばせた。

何よりも全編にあふれる日本の農村の自然の豊かさ、美しさには心を洗われた。祭り、踊り、歌、大家族での食事を巧みに取り入れているのも良い。構想10年、撮影に2年。じっくりと現地に腰を据えて作った斎藤監督の熱意と努力。この作品にかけた想いが実った。

#### 大日本生き残り隊のメンバー

松原智恵子(マダム)、永島敏行(車屋)、鹿内孝(頭取)、ガッツ石松(運転手)、山内賢(喫茶店のマスター)、エド山口(旅館の番頭、江原修(先生)、森崎めぐみ)。

妻の南田陽子さんを亡くした長門裕之が郵便局長役で元氣な姿を見せていたのが印象的。

浅茅陽子は皆をまとめる、かあちゃん役で大奮闘。



農村ミュージカル的な光景も



長門裕之の元氣な姿が印象的